

目次

はじめに

本編

1. 新たな取組方針策定の背景	1
2. 令和3年策定の取組方針の振り返り	2
3. 目的・目標等	6
4. 各取組主体の推進体制と役割、進捗管理	8
5. 学校の働き方改革推進の具体的な取組内容と取組主体	11
6. 学校の働き方改革「校内ワークショップ」	16

資料編

1. これまでの取組経過及び各種調査結果

(1) これまでの取組経過	資1
(2) 「時間外在校等時間等における業務実態調査」結果（概要）	資2
(3) 「学校の働き方改革についての教職員の意識等調査」結果（概要）	資4
(4) 各取組主体の主な意見	資6

2. 本県の実践事例

資8

3. 関連する答申・方針・ガイドライン等

(1) 令和6年中央教育審議会答申（概要）	資24
(2) 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案の概要	資28
(3) 山梨県立学校の教育職員の在校等時間の上限等に関する方針（概要）	資29
(4) やまなし学校部活動及びやまなし地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（概要）	資31
(5) 学校・教師が担う業務に係る3分類14項目	資32

4. 参考資料

資34

資料編

山梨県公立学校
働き方
取組方針

改革

～働き方改革は全員が担当者
みんなのウェルビーイングの
実現のために～

1. これまでの取組経過及び各種調査結果

(1) これまでの取組経過

①平成28年10月	「教員の多忙化対策検討委員会」設置 教員が子供と向き合う時間を確保できるよう、教員の多忙化改善に向けた対策を検討
②平成29年3月	「教員の多忙化改善に向けた取組方針」策定 県教育委員会、市町村（組合）教育委員会、学校において主体的に業務改善に取り組むための取組方針を策定
③平成29年度 ～令和2年度	取組方針に基づく多忙化改善に向けた取組の実践 多忙化改善のための組織づくり、改善計画の作成・提出、改善計画による業務改善の実施・検証、改善計画・達成状況の公表
④平成30年3月	「やまなし運動部活動ガイドライン」策定 生徒にとって望ましい運動部活動の環境を構築するという観点に立ち、運動部活動を地域、学校等に応じて最適な形で実施するためのガイドラインを策定
⑤令和元年7月	「やまなし文化部活動ガイドライン」策定 生徒にとって望ましい文化部活動の環境を構築するという観点に立ち、文化部活動を地域、学校等に応じて最適な形で実施するためのガイドラインを策定
⑥令和2年3月	「山梨県立学校の教育職員の在校等時間の上限等に関する方針」策定 教育委員会がサービスを監督するものの業務量の適切な管理その他教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する方針を策定
⑦令和3年3月	「山梨県の公立学校における働き方改革取組方針」策定 県教育委員会、市町村（組合）教育委員会、学校において主体的に業務改善に取り組むための取組方針を策定
⑧令和3年度 ～令和6年度	取組方針に基づく働き方改革の取組の実践 組織づくり、アクションシートの作成・提出、アクションシートによる業務改善の実施・検証
⑫令和5年12月	「やまなし学校部活動及びやまなし地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」策定 生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことのできる機会の確保を目指して取り組むためのガイドラインを策定

(2) 「時間外在校等時間等における業務実態調査」結果概要

※ 詳しい結果については、右のQRコードより、県HPに掲載の調査結果をご覧ください。



〈長時間勤務を行った教育職員の状況〉

	年度	平日			週休日		
		令和2年度	令和6年度	増減	令和2年度	令和6年度	増減
公立小学校	割合	98.1%	98.4%	+0.3%	21.0%	12.5%	-8.5%
	平均時間	2時間23分	2時間16分	-7分	2時間43分	2時間49分	+6分
公立中学校	割合	98.6%	98.3%	-0.2%	58.1%	53.4%	-4.7%
	平均時間	2時間31分	2時間30分	-1分	5時間13分	5時間06分	-6分
県立高校 全日制	割合	97.5%	97.6%	+0.02%	58.8%	47.3%	-6.5%
	平均時間	2時間12分	2時間13分	+1分	5時間22分	5時間53分	+30分
県立高校 定時制 通信制	割合	58.0%	87.1%	+29.1%	9.8%	11.4%	+1.6%
	平均時間	1時間02分	57分	-5分	3時間32分	2時間48分	-44分
特別支援 学校	割合	97.0%	96.4%	-0.6%	12.8%	8.1%	-4.7%
	平均時間	1時間41分	1時間34分	-7分	2時間36分	2時間06分	-30分
県全体	割合	97.2%	97.8%	+0.6%	35.6%	28.1%	-7.5%
	平均時間	2時間18分	2時間13分	-5分	4時間35分	4時間53分	+17分

〈自宅等の学校外で業務を行った教育職員の状況〉

	年度	平日	週休日
		令和6年度	令和6年度
公立小学校	割合	37.2%	25.9%
	平均時間	54分	1時間45分
公立中学校	割合	30.1%	19.9%
	平均時間	1時間04分	1時間55分
県立高校 全日制	割合	25.7%	15.2%
	平均時間	1時間08分	2時間08分
県立高校 定時制 通信制	割合	16.4%	9.3%
	平均時間	1時間04分	2時間03分
特別支援 学校	割合	26.4%	15.8%
	平均時間	1時間01分	1時間38分
県全体	割合	31.7%	21.0%
	平均時間	59分	1時間50分

〈時間外に行われる業務・・・のべ人数〉

		平日			週休日		
		①	②	③	①	②	③
公立 小学校	令和2 年度	授業準備 (7,149名)	朝の業務 (5,385名)	学校経営 (3,062名)	授業準備 (306名)	学校経営 (139名)	学年・学級 経営 (127名)
	令和6 年度	授業準備 (8,709名)	朝の業務 (4,438名)	学年・学級 経営 (2,918名)	授業準備 (166名)	事務その他 (96名)	学年・学級 経営 (56名)
公立 中学校	令和2 年度	授業準備 (3,271名)	朝の業務 (2,804名)	部活動・ク ラブ活動 (1,836名)	部活動・ク ラブ活動 (1,006名)	授業準備 (195名)	学年・学級 経営 (77名)
	令和6 年度	授業準備 (3,780名)	朝の業務 (2,085名)	部活動・ク ラブ活動 (1,811名)	部活動・ク ラブ活動 (920名)	授業準備 (127名)	事務その他 (90名)
県立高校 全日制	令和2 年度	授業準備 (2,745名)	部活動・ク ラブ活動 (2,282名)	生徒指導 (1,585名)	部活動・ク ラブ活動 (722名)	授業準備 (120名)	その他の 業務 (64名)
	令和6 年度	授業準備 (2,714名)	部活動・ク ラブ活動 (1,911名)	朝の業務 (1,601名)	部活動・ク ラブ活動 (628名)	授業準備 (80名)	その他の 業務 (70名)
県立高校 定時制 通信制	令和2 年度	授業準備 (140名)	学校経営 (58名)	始業前の 業務 (56名)	学校経営 (7名)	部活動・クラブ活動、授業 準備、始業前の業務(通信 制)(各4名)	
	令和6 年度	授業準備 (248名)	始業前の 業務 (132名)	学校経営 (79名)	授業準備 (5名)	事務 (その他) (2名)	部活動・ク ラブ活動 (3名)
特別支援 学校	令和2 年度	授業準備 (1,897名)	朝の業務 (796名)	学校経営 (554名)	授業準備 (55名)	部活動・クラブ活動、学校 経営 (各15名)	
	令和6 年度	授業準備 (2,052名)	朝の業務 (957名)	事務 (その他) (487名)	授業準備 (29名)	学校行事 (11名)	学校経営 (8名)

〈時間外に行われる業務・・・のべ時間〉

単位：時間

		平日			週休日		
		①	②	③	①	②	③
公立 小学校	令和2 年度	授業準備 (8,885:30)	学校経営 (3,798:55)	朝の業務 (3,176:20)	授業準備 (557:44)	学校経営 (212:37)	その他の 業務 (157:44)
	令和6 年度	授業準備 (9,770:32)	事務 (その他) (3,287:25)	学年・学級 経営 (2,937:23)	授業準備 (302:27)	事務 (その他) (171:36)	その他の 業務 (97:01)
公立 中学校	令和2 年度	授業準備 (4,304:59)	学年・学級 経営 (1,828:49)	学校経営 (1,753:30)	部活動・ク ラブ活動 (5,057:24)	授業準備 (328:54)	その他の 業務 (150:51)
	令和6 年度	授業準備 (4,508:00)	学年・学級 経営 (1,959:52)	事務 (その他) (1,815:17)	部活動・ク ラブ活動 (4,455:56)	授業準備 (197:41)	事務 (その他) (158:03)
県立高校 全日制	令和2 年度	部活動・ク ラブ活動 (3,298:42)	授業準備 (2,271:08)	生徒指導 (個別) (1,668:44)	部活動・ク ラブ活動 (3,891:16)	その他の 業務 (296:45)	授業準備 (218:25)
	令和6 年度	部活動・ク ラブ活動 (2,896:58)	授業準備 (2,471:10)	生徒指導 (個別) (1,270:53)	部活動・ク ラブ活動 (3,613:15)	その他の 業務 (343:08)	授業準備 (156:50)
県立高校 定時制 通信制	令和2 年度	授業準備 (92:01)	学校経営 (46:41)	部活動・ク ラブ活動 (45:05)	部活動・ク ラブ活動 (25:00)	学校経営 (21:04)	授業準備 (5:25)
	令和6 年度	授業準備 (153:37)	学校経営 (83:53)	部活動・ク ラブ活動 (40:53)	部活動・ク ラブ活動 (21:30)	授業準備 (11:29)	行政・関係 団体・業者 対応(5:15)
特別支援 学校	令和2 年度	授業準備 (2,145:15)	学校経営 (596:01)	学校行事 (520:23)	授業準備 (107:35)	部活動・ク ラブ活動 (53:24)	学校経営 (28:47)
	令和6 年度	授業準備 (2,196:16)	学校行事 (586:23)	学校経営 (461:52)	授業準備 (49:17)	部活動・ク ラブ活動 (26:00)	事務 (その他) (18:10)

〈自宅等の学校外で行われる業務…のべ人数・のべ時間〉

単位：時間

		平日			週休日		
		①	②	③	①	②	③
公立 小学校	のべ人数	授業準備 (1,881名)	成績処理 (373名)	学年・学級 経営 (320名)	授業準備 (665名)	学年・学級 経営 (134名)	成績処理 (123名)
	のべ時間	授業準備 (1,478:17)	学年・学級 経営 (244:45)	成績処理 (243:32)	授業準備 (945:18)	事務 (その他) (165:52)	学年・学級 経営 (149:39)
公立 中学校	のべ人数	授業準備 (746名)	学年・学級 経営 (129名)	成績処理 (87名)	授業準備 (228名)	学年・学級 経営 (61名)	事務 (その他) (53名)
	のべ時間	授業準備 (708:36)	学年・学級 経営 (104:40)	成績処理 (83:00)	授業準備 (362:55)	学年・学級 経営 (84:20)	その他の 業務 (80:10)
県立高校 全日制	のべ人数	授業準備 (520名)	学年・学級 経営 (49名)	その他の 業務 (43名)	授業準備 (146名)	成績処理 (21名)	部活動・ク ラブ活動 (15名)
	のべ時間	授業準備 (516:58)	その他の 業務 (58:30)	部活動・ク ラブ活動 (51:15)	授業準備 (248:51)	成績処理 (58:05)	部活動・ク ラブ活動 (35:54)
県立高校 定時制 通信制	のべ人数	授業準備 (28名)	学習指導 (6名)	成績処理 (4名)	授業準備 (7名)	学習指導、 生徒指導、 学年・学級 経営、その他 業務(各2名)	成績処理 (3名)
	のべ時間	授業準備 (32:15)	成績処理 (10:00)	学習指導 (5:30)	授業準備 (16:30)	成績処理 (5:40)	学校行事、 その他の業 務(各4:00)
特別支援 学校	のべ人数	授業準備 (318名)	学校行事 (56名)	学校経営 (32名)	授業準備 (109名)	学校経営 (15名)	学校行事 (10名)
	のべ時間	授業準備 (305:43)	学校行事 (48:55)	学校経営 (32:29)	授業準備 (171:50)	学校経営 (21:01)	事務 (その他) (15:25)

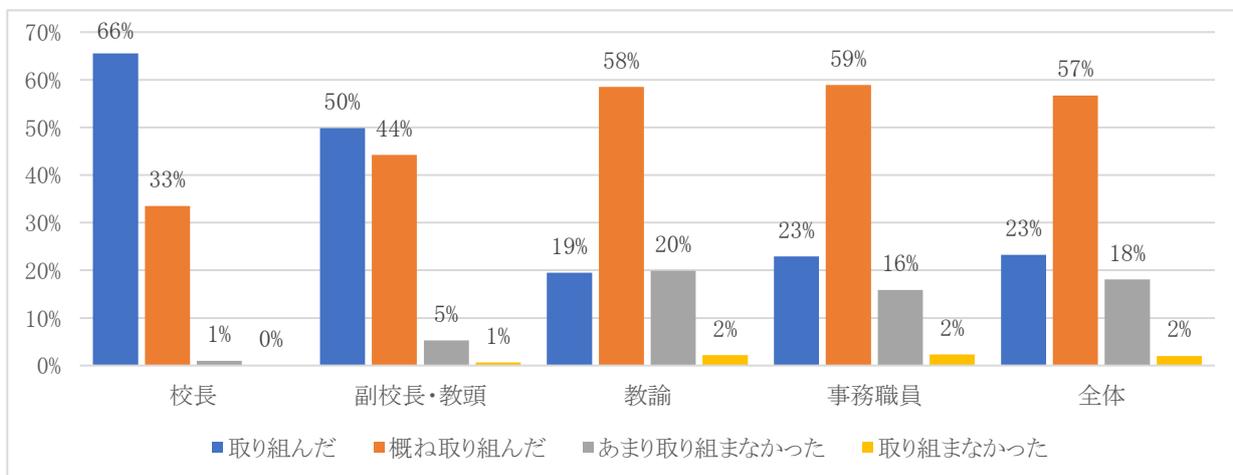
（3）「学校の働き方改革についての教職員の意識等調査」結果概要

※ 詳しい結果については、右のQRコードより、県HPに掲載の調査結果をご覧ください。



〈学校の働き方改革に対する自身の取組状況〉

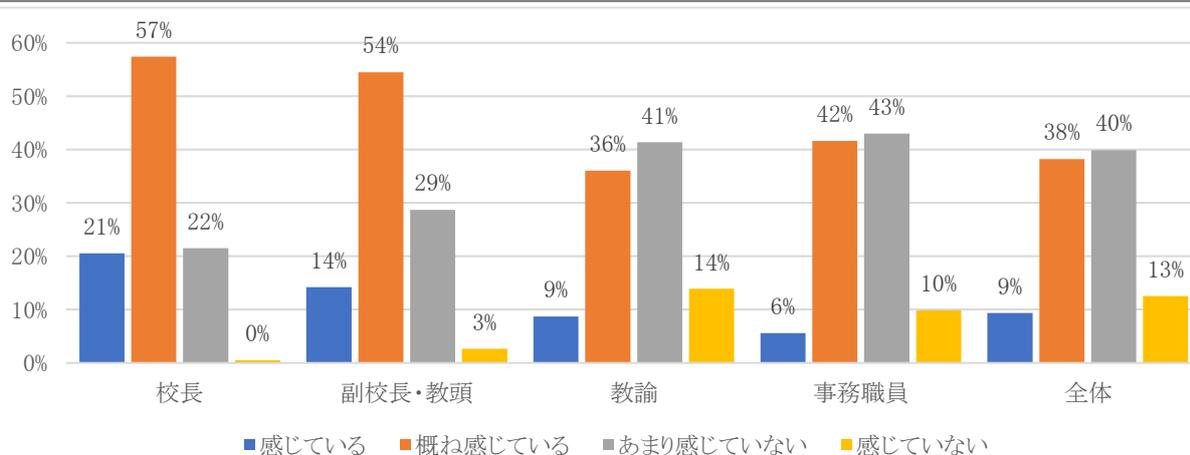
問) 各学校において働き方改革の取組を進めています、「教員の働き方改革は全員が担当者である」という認識のもと、ご自身の働き方を見直すなど、取り組みをされましたか。



※教諭（含：主幹教諭、養護教諭、栄養教諭）

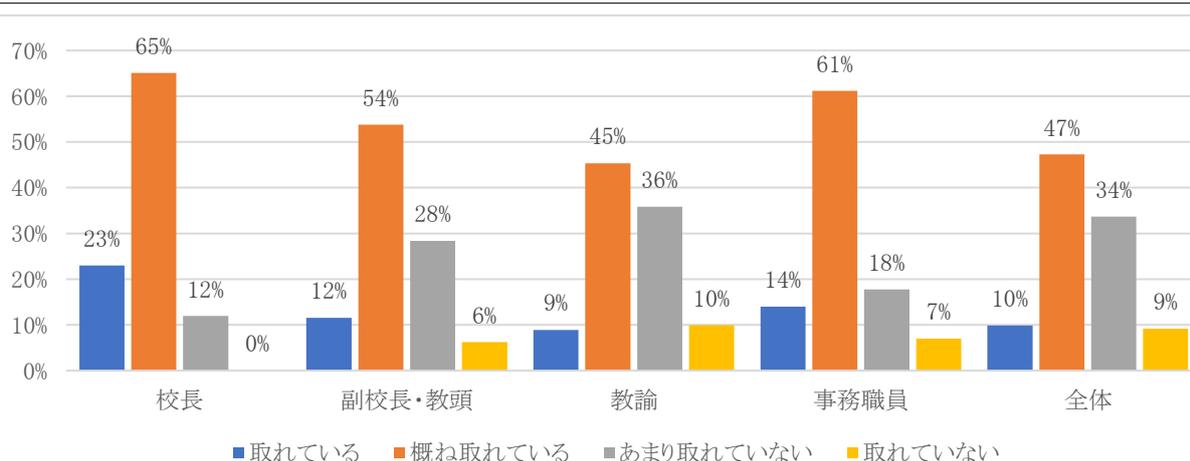
〈所属校における働き方改革の進み具合についての感じ方〉

問) あなたは、所属校において、学校・教職員の業務内容の見直しや教職員の長時間勤務の状態を改善し、教職員が本来の業務に専念できる環境を整える「働き方改革が進んだ」と感じていますか。



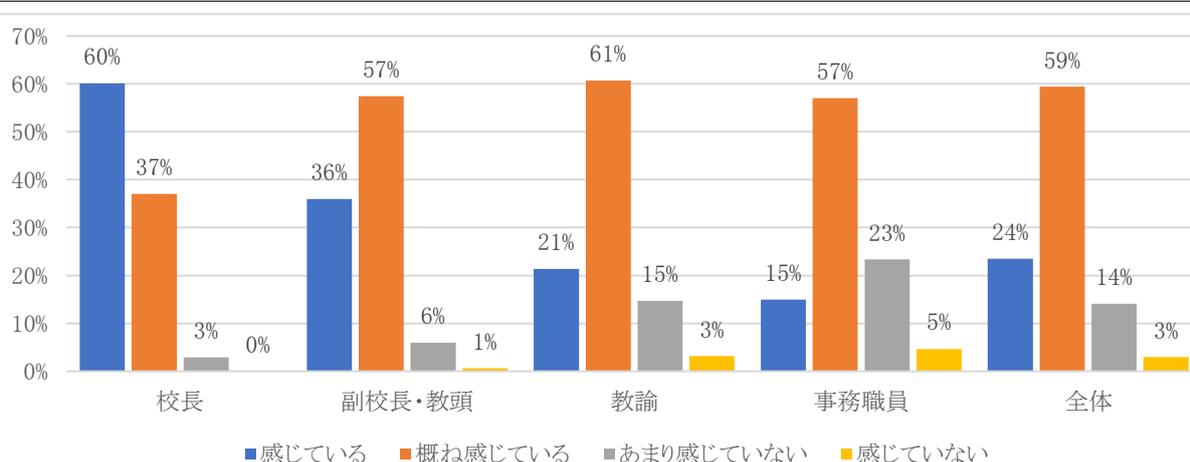
〈自身のワーク・ライフ・バランスの状況〉

問) 自身のワーク・ライフ・バランスの状況はいかがですか。



〈仕事における「働きがい」の状況〉

問) あなたは、仕事から得られる充実感や満足感、仕事に対して積極的に取り組もうとする意欲等、いわゆる「働きがい」を感じていますか。



(4) 各取組主体の主な意見

取組方針の中で特に役に立った取組

1 勤務時間管理の徹底及び適切な勤務時間の設定

- 学校閉庁日の設定や定時退校日の設定が効果的
- 留守番電話の設置や効果的な勤務時間の割り振りが有効
- 各学校の実情を踏まえた行事や会議等の見直し

2 勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の徹底

- 管理職のマネジメント力とリーダーシップの発揮が重要
- 長時間勤務者の報告と産業医等の面接指導の実施
- 「きずなの日」の設定と着実な推進が定着
- 一人ひとりの教職員による働き方改革の見直しと意識改革

3 外部人材の活用

- 生徒指導や保護者対応でのS CやS S Wとの連携や、支援スタッフ、I C T支援員の活用

4 I C T等の校務活用による業務改善

- 情報の共有、資料のペーパーレス化、データによる文書管理の推進
- I C T等の活用による会議の効率化や業務の見直しが効果的
- オンライン会議・研修等の適正実施

5 P T A・地域・関係諸団体との連携

- P T A・保護者・地域の理解を求める取組が有効
- 学校運営協議会での協力依頼

6 部活動運営の適正化・部活動指導の負担軽減

- 部活動指導員の積極的な活用が効果的
- 部活動運営の適正化及び地域部活動の推進

- ◆全体的に、I C Tの校務活用や教職員一人ひとりの働き方改革の取組の重要性が強調されている。また、勤務時間管理や健康管理の徹底、部活動運営の適正化等、基本的な取組への評価が高い。

取組方針の取組以外で有効だと思われる取組

1 教育課程の見直しや学校運営の工夫

- 「文書処理日（仮称）」や「業務遂行日（仮称）」の設定
- 日課表見直しによる放課後確保（中学校45分授業、小学校40分授業）
- 教育課程の工夫・見直し（授業時数・持ち時間数の見直し）
- 教科担任制やチーム担任制の導入・拡大

2 I C Tの校務活用

- チャット機能を活用した教職員間の連絡・情報共有・会議削減
- A Iを活用した採点作業や時間割作成が効果的
- リモート勤務の導入
- フルクラウド型校務支援システムとネットワーク統合による業務効率化

3 P T A ・地域との連携

- P T Aや地域、関係団体等と連携した業務改善（会議等の削減・縮小の取組）

4 その他

- 教員の確保、教員定数の確実な配置
- ボランティア、業務の外部委託や人材バンクの活用
- 労働安全衛生に関して職員の健康管理の取組

- ◆全体的に、教員の確保、教育課程の改善、I C Tの更なる校務活用を有効ととらえている。また、P T Aや地域との連携も重要な要素として評価が高い。

働き方改革の取組についての課題等

1 勤務時間と業務の見直し

- 勤務時間管理と業務削減・効率化はセット
- これ以上の削減は難しい。
- 校務分掌の見直し等、業務の役割分担と適正化が必要

2 働き方改革の意識改革と実践

- 教職員一人ひとりの働き方改革への意識改革のいっそうの推進
- 各校の良い取組を共有し、積極的に取り入れる姿勢が重要
- 精神的な負担の軽減も重視する必要がある。

3 外部人材の活用と地域連携

- 学校や教師以外が担うべき業務についての人材や委託先が不足
- P T A、保護者や地域の理解と協力がいっそう重要
- 外部人材・ボランティア等の不足が課題

4 I C Tの活用と校務支援システムの改善

- 校務支援システムの改善が必要
- I C Tの活用を進めるための操作方法や変更への対応について、スキルを習得するための負担が大きい。

5 部活動指導の負担軽減と部活動運営の適正化

- 朝練や練習終了時刻の変更、試合の制限等、部活動運営や指導の見直し
- 会議、大会運営や引率等、競技団体への積極的な働きかけ
- 部活動の一刻も早い地域への移行

6 教育委員会の役割と会議等の見直し

- 教育委員会主導による取組の実施
- 教育委員会主催の会議や研修、調査・報告の見直し
- 会議や研修等の原則オンライン実施への変更
- 予算措置と人材確保（教職員定数の確実な配置・増員）
- 授業時数、持ち時間数の見直し

- ◆全体的に、業務の見直し、I C Tの活用、校務支援システムの改善、地域連携の強化、部活動運営の適正化が重要。また、教育委員会の役割や会議の見直しも求められている。

大月市立大月東小学校 - 40分授業午前5時間制による教育の質の向上と働き方改革の推進 -

特色ある教育課程として東京課程や神奈川県横浜市で取り組まれ、全国的に広まりを見せている「40分授業午前5時間制」を導入し、子どもの学びの改善を図ることと質の高い教育の実現に取り組んでいる。また、取組の結果として、放課後の時間に余白を生み出し、教員の負担を軽減する取組としても効果が期待できる。

実施の背景

本校では、かねてから下校時刻の変更に伴う検刻を重ね、令和5年度4月より、日課表を見直し、下校時刻を10分ほど早めることとした。そのため、この時点では、40分授業導入については、それほど必要性を感じていなかった。しかし、その後、教職員の長時間勤務の多さ、教職員の健康管理、授業準備の確保といった課題に校長として大きな危機感を抱くようになった。そこで、新たな取組として「スイスイ帰る水曜日」の名前で定時退校日の取組を開始。併せて40分授業の導入に向けて、市教委や市当局、市学校経営研で、相談を重ねた。その結果、各所の理解を得ることができた。また、試行を重ね、保護者の理解も得ることができ、午前5校時日課を導入することとなった。

導入の手順

- 令和5年4月 導入に向けて検討することを確認
- 令和5年5月～ 市教委や市当局（子育て支援課）と導入に向けて検討。市学校経営研で、導入に向けて検討する旨を報告
- 令和5年7月 導入についての課題を確認
- 令和5年9月 日課表案を検討
- 令和5年11月～ 保護者への説明(P役員会、土曜学級等)
- 令和6年1月～ 試行と振り返り
- 令和6年3月 市教委や市当局、保護者と導入の確認

導入のねらい

- ▶ 授業改善による学力向上
 - ▶ 子どもたちの豊かな活動の保障
 - ▶ 教員が子どもと向き合う時間の確保
- ★午前中は、子どもの集中力が高いため、基礎的・基本的な内容の定着を図るための授業を中心に5時間に変更。午後の時間は、ゆとりある教育課程を実施し、作業や活動を中心とした内容を設定する。このことにより、**子どもの学習の状態で応じた指導・支援が可能**となる。
- ★教員にとっては、授業準備や教材研究、児童理解を深めるなど教員の裁量で使える時間が増え、**結果として負担軽減につながる**ことができる。

日課表

令和6年度 大月東小学校 日課表

児童学校	6校時日課	5校時日課	平日日課	児童学校
朝の会	8:15	8:15~8:25	朝の会	朝の会
0校時	8:25~9:05 (40分)	8:25~8:40 朝の学習(15分) 8:40~9:05 朝の学習(25分) (40分)	8:25~9:05 (40分)	0校時
1校時	9:10~9:50 (40分)	9:10~9:50 (40分)	1校時	1校時
2校時	9:55~10:35 (40分)	9:55~10:35 (40分)	2校時	2校時
集団休み	10:35~10:50 (15分)	学習10:50	集団休み	集団休み
3校時	10:55~11:35 (40分)	10:55~11:35 (40分)	3校時	3校時
4校時	11:40~12:20 (40分)	11:40~12:20 (40分)	4校時	4校時
給食	12:20~13:00 (40分)	12:20~13:00 (40分)	給食	給食
昼休み	13:00~13:20 (20分)	運動13:20	昼休み	昼休み
5校時	13:20~13:40 (20分)* 13:40~14:00 (20分)	運動13:20 13:40~14:00 (20分)	5校時	5校時
6校時	14:00~14:40 (40分)	14:00~14:40 (40分)	6校時	6校時
帰りの会	14:45~14:50 (5分)* 14:50~15:00 (10分)	14:45~14:50 (5分)* 14:50~15:00 (10分)	帰りの会	帰りの会
集合	14:55	14:55	集合	集合
下校	15:00	15:00	下校	下校

注：*児童学校・児童館等が利用可能な場合は、13:00~13:20 ロング
*朝の学習は、学級裁量により、15分または25分とする。

- 【概要】
- 朝の会 8:15
 - 0校時の設定 (5校時)
 - 日課の学年は、学級裁量
 - 量：朝の学習・ゆとりタイム・1年生はスタートカリキュラム
 - 水曜日：昼休みの確保
 - 業曜日：清掃カット (40分ロング昼休み)
 - 菊花タイム (学級裁量：ドリル、5校時と併せて60分授業等)
 - 帰りの会 14:45
 - 児童下校 15:00

★日課の変更がないので、見通しがもてる。

導入後の様子

- 〈子どもの声〉
- 45分授業だと集中力が切れてしまっけれど、40分授業だったら集中できる。
 - 短い方が疲れにくい。
 - 家に帰ってから時間が長いので、自分の好きなことができる。
- ▲短くてやりたいことができなかった。
- 〈保護者の声〉
- 全学年が同じ時間に帰ってこられるのが安心。
 - 家に帰ってから時間にゆとりがもてる。
 - ▲中学校に進学したときに、50分授業になるので、そのギャップが心配。
- 〈教員の声〉
- 授業のねらいが明確になりやすくなった。
 - 行事のため授業をカットすることが減るのがよい。
 - ゆとりタイム、菊花タイムを有効活用できる。
 - 下校指導が1回で済む。
 - 準備や打合せが勤務時間内に設定できる。
 - ▲実技系の準備や片付けの時間が十分でない。

取組状況

<時間外在校等時間の比較>

月	時間	R5年度	R6年度
4月	80時間以上	13.6%	4.3%
	45時間以上80時間未満	45.4%	30.4%
5月	80時間以上	9.1%	0%
	45時間以上80時間未満	40.9%	26.1%
6月	80時間以上	4.5%	0%
	45時間以上80時間未満	36.4%	26.1%

▶ 令和5年度と令和6年度を比較すると、確実に時間外在校等時間は減少しているものの、7月以降も依然として26.1%の教員が時間外勤務をしている状況であり、**なかなか改善が進まない。→ 26.1%の壁**

現状・課題

- ▶ 時間外在校時間の要因
- ・学級担任 (授業準備・成績処理・学年学級経営事務・生徒指導・保護者対応)
 - ・通級指導担当 (指導終了時刻16:45 放課後の確保が困難な状況)
 - ・養護教諭 (調査回答・事務処理)
 - ・事務職員 (調査回答・事務処理)
 - ・管理職 (事務処理・外部との対応・打合せ)

★根本的な解決が求められるものの、**いずれの要因もすぐに解決できるものではない。**

今後の取組

- ▶ 令和7年度も40分授業を継続
- ▶ ドリル学習等に「デジタル解答」を導入し、成績処理の効率化を図る。
- ▶ ICTの活用をさらに進め、業務の効率化を図る。
- ▶ 諸会議のあり方を見直し、勤務時間の縮減を図る。

学校の働き方改革推進モデル校の取組事例

大月市立大月東小学校 - ICTを活用した業務の効率化と教育の質の向上 -

小学校

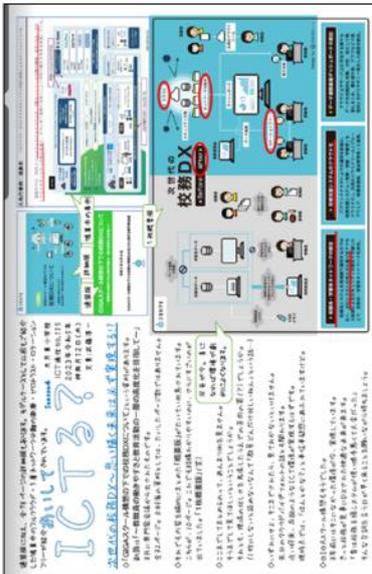
ICT通信の発行やICT三研修会の実施等を通じて、ICT技術を活用した新たな仕事や学びのスタイルについて、職場内の理解を深め実践につなげていく取組が続いている。併せて、チャット等の活用による会議や打合せ時間の縮減、保護者への連絡アプリの活用等、校務でのICTの活用も積極的に進めている。

実施の背景

本校では、2020年に全教室に電子黒板が整備されて以降、デジタル教材をすぐに表示でき、子供たちと双方向の授業が可能になった。さらに、2021年から一人一台端末が導入されるとともに、ネット回線の容量も拡大されたことで、電子黒板と端末の連携がスムーズになり、子供たちの主体的な学びが飛躍的に向上した。このように、ICTの活用は、本校にとっても大きな効果をもたらした。その要になったのが教務主任である。具体的には、ICT通信を発行する等により、「当たり前」を疑い、「例年通り」をやめ、「新しいこと」にチャレンジをする勇気をもとう！と呼びかけ、前年踏襲ではない新しい取組について提案してきた。

取組の実際①

〈ICT通信の発行〉



- 学校現場で実践しているICT教育の事例を紹介
- コロナ禍で、一人一台児童用端末やインターネット環境整備が進んでいかなかったことに危機感を抱き、2020年4月から発行開始
- 教務主任が作成を担当、現在通算1000号を突破
- てきそうなことから少しずつ発信。自身が試したことや、上手くいかなかったことも掲載し、トライ&エラーで試行錯誤している様子を紹介

- 教務と校務の両方の実践事例を中心に、最近では、AIやVRを活用した授業などの様子を掲載
- 参考にしてもらうため、市教委や市内の教員にも共有

〈具体的な内容〉

- Microsoft社の環境を利用し、TeamsやOneNoteに集約して資料を散在させない方法
 - 市内全体で導入している自治体版のCanvaの活用方法
 - 教育用SNSのMicrosoft Flip, Padletの活用方法
- 〈職員の声〉
- PC画面の写真入りでとてもわかりやすい。
 - 使い勝手やポイントが書かれているので実用的。

取組の実際②

〈校内三研修会の実施〉



- 毎週1回の終礼後に開催 5分程度で実施
 - Teamsにコンテンツを掲載
 - 楽しく参加できる雰囲気
 - 実践したくなる内容が中心のため大好評
- 〈職員の声〉
- 「先生！知らなかったです。あんないろいろなことができるんですね！」
 - 「多くの機能を知ることができて、目から鱗！」
 - 「わからないことを聞きやすい環境になった」
 - 「(他校の教職員から)うちの学校にも来てもらえませんか？(との要望)」 ➡ 市教委から要請で実現 !!!

- 校内だけでなくとまらず市内の教職員にも呼びかけて実施
- 地区教協の研究会終了後 Teams×Canvaで「劇的に授業を変えよう！」というテーマで希望者対象の研修会を開催
- 実際に触れてみることで授業改善のイメージをもってもらうために、教務主任が市内全小中学校に出向き、Canva活用法研修会を実施

ICT校務活用例

- 職員会議資料はクラウド上で共有しペーパーレス化を実現
- 教職員のアンケート、施設利用予約をクラウド上で管理
- 学校徴収金は口座振替などを利用し現金を扱わない。
- 専用アプリで、小テストや学級通信を作成
- 運動会など提案資料が多いものをOneNoteで一つに集約
- Teamsをフル活用し、データ共有により効率アップ
 - ・チャネルで児童と共同編集のため修正が簡単に
 - ・応援歌、児童会選挙広報など、字幕と解説入り動画を共有
- 保護者連絡ツールアプリ [feteru] を市が導入し、出欠確認やデジタル配信することでペーパーレス化を実現
- Hyper-QUのデジタル版 (WEB-QU) の導入で、即日、学級の様子を把握し、指導に生かす。さらに、管理職もすべての学級について端末から確認できる。
- ChatGPT, Copilotの活用による業務のスマート化
- チャットによる会議の縮減、指導法・指導案の相談・検討
- Canvaで学級ロゴや委員会・学級係のポスターを作成
- Flip動画を保護者と共有し、児童の様子を簡単に配信
- PTA通信、PTA総会・学年総会資料のデジタル配信
- 活用したいアプリは、その有効性を市教委に伝えている。

成果・課題

- 授業準備の時間が大幅に短縮し過去データも再利用可能
- 授業中、教材としてすぐに反映することができている。
- テンプレートを活用することで資料づくりが格段に簡単に
- 新たな機能を知ること、視野を広げ授業改善につながる
- 単語や小テストなどをFormsで作成。自動採点もできて、中学校教員も担当教科で使える実施。自動採点もできて、最新の参考図書を職員室でいつでも閲覧可能にしたことで、教科指導のスキル上達につながった。
- 三研修会の実施により、わからないことを尋ねやすくなり、全職員を大切に職場環境づくりにつながった。



大月市の広報に掲載→

甲府市立東小学校 - お便り配信アプリによる学校からのお便りのデジタル化 -

小学校

お便り配信アプリ「スクリレ」の導入により、保護者への配付物を紙媒体からデータ配信に切り替え、配布物の印刷・配付に係る業務の負担軽減とともにペーパーレス化の取組を進めている。なお、アプリに表示される広告を閲覧することで貯まるスクリレポイントで、児童への教材等の還元といった効果も期待できる。

実施の背景

本校では、これまで、適正な勤務時間を実現するために、校務支援システムの諸機能を最大限に有効活用して、報告や申請の省力化、情報共有による会議の削減など、これまでの働き方を見直し、積極的に業務の効率化を図ってきた。お便りのデジタル化に着目したのは、令和4年度実施の保護者アンケートにおいて「お便りが届かない」との意見が数件あったため、確実に保護者にお便りを届ける方法を探ってきた。

時を同じくして、甲府市内でも配信アプリによる学校からの配布物のデジタル化に取り組む学校が見られるようになり、本校でも、その取組の成果に注目してきた。そこで、先進校（甲府市立伊勢小学校）の取組を参考にしながら、本校への導入について検討を重ねてきた。

導入の手順

令和4年10月	職員への説明
令和4年12月	PTAとの協議（学校委員会）
令和5年1月～	「スクリレアプリ」試行開始
令和5年3月	PTA学年総会で趣旨説明（校長）
令和5年4月	PTA総会・学年総会で趣旨説明を配付 保護者へ依頼文書と登録説明書を配付
令和5年4月～	4月中は、紙配付とデジタル配信併用
令和5年5月～	デジタルのみの配信開始

〈個人情報保護の観点から〉

- ▶ 名前、電話番号、メールアドレス、SNSアカウント等の登録が一切必要なく個人情報をおぼわらないため情報漏洩リスクを大幅に削減でき、保護者、職員ともに安心して使用できる。

配信内容

- ▶ 学校便り、学年便り、給食献立表、教育委員会からのお知らせ等、保護者向けのお便りはすべて電子配信
- ▶ 図書便り、保健室便り等、児童向けのお便りは紙配信
- ▶ PTA総会資料なども保護者の登録端末へ電子配信

（参考）児童総会の資料についても児童の一人一台端末に電子配信。総会は、オンラインでの実施。資料の印刷、配付、会場準備にかかる時間が削減。

スクリレ紹介

【特徴】

- ① 個人情報登録は不要
- ② 保護者2名まで利用可能
- ③ アプッシュ通知のため確認漏れを防止
- ④ フィルタリングができ、過去のお便りの閲覧も簡単
- ⑤ 行事予定などよくみるものはお気に入り登録で管理
- ⑥ 保護者がアプリ上の広告を閲覧すると学校にポイントが付与

【広告表示】

- ・行政広告誌の広告と同様のガイドラインに沿って審査された広告のみが掲載
- ・ポイント還元により、教育関連の物品（図書、ボール等）と交換できる。

取組のポイント①

〈職員の理解を得るために〉

- ▶ 教職員間で、繰り返し配信や受け取りの試行を実施
- ▶ 配信を教務主任が担うことで、正確かつ効率的な配信が実現。担任の印刷・配付作業に加え配信作業も軽減

〈職員の声〉

- ▶ 配付物のバックナンバーを手元の端末でいつでも確認できるため、データベースとしても活用できてとても便利
- ▶ 転入児童の家庭についても、以前配付したお便りも閲覧できるので、情報共有に役立つ。

取組のポイント②

〈保護者の理解を得るために〉

- ▶ PTAの各種会議等において、「東小のこれからの考え」を提示し、児童数や教員数、家庭数の減少等のデータを示し、持続可能な学校のためには、これまでを当たり前とせず、行事削減や業務効率化による学校の見直しが必要であることを伝えた。

資料「東小のこれからの考え」より一部抜粋

年度	H 2 0	H 2 5	H 3 0	R 4
西暦	2008	2013	2018	2022
児童数	458	393	352	312
家庭数	400	308	270	255
学級数	17	16	14	14
教職員数 （常勤）人	31	26	24	23

学校の働き方改革により、時代にあわせて学校を適正化していくことは、保護者負担の軽減にもつながることを説明。「スクリレ」導入については、保護者の負担軽減やPTA会費の減収対策に有効であることを説明して理解を求めた。

〈保護者の声〉

- ▶ スマホに予定表や会議通知が送られてくるので、自分の仕事のスケジュールの確認ができてありがたい。
- ▶ 確実に手元に届くので安心。会議資料や通知を出先でもチェックでき、持ち歩く必要もない。
- ▶ 買い物先で給食の献立を確認でき、夕食のメニューを考える参考として役立った。

成果・効果

- ▶ 現在、保護者の登録率100%
- ▶ 学年、学期、学校単位で一斉配信できるので、伝え漏れの心配がなく迅速で確実
- ▶ 児童の渡し忘れや保護者がお便りを紛失する心配不要
- ▶ 印刷の手間がなく、お便りを配付する手間も削減
- ▶ 紙配付との併用運用も可能で、ペーパーレス化を促進
- ▶ 令和4年度と比較し、紙の消費枚数20%削減
- ▶ スクリレポイントの還元により、17,000ポイント（円）相当の教材を整備予定。ベルマークと似ており、PTA会費の補填にもなる。

課題・対応

- ▶ 現在は、無料の「スクリレお便り」と「スクリレポイント」を使用しているが、「欠席連絡」「アンケート機能」等は、料金が発生するため、PTAと相談しながら、必要な機能について検討していきたい。
- ▶ スマホ画面での読みやすさを向上させるためには、発信するお便り（PDF）の紙幅や文字数について検討する必要がある。例えば、スマホ版のお便りフォーマットを作成し、全校共通で利用していくことも必要

